

## ファンタジー 性神世界の秘密

### どこでもAV

AV学部の授業は一応、密室で行われている。この学部の授業のために、帝都箱崎大学は地下に講義室を作ったのだ。何せ実践的な授業を行うための、AV女優を招いての講義のため、生徒はAV女優と絡みができる。広い校舎とはいえ、大学外の関係者も出入りするため、そこまでの配慮が必要だったのだ。赤木恵一は汁男優・養成講座に出席した。

「以上で汁男優とは、何かが、わかったと思う。どうだね？」

講師は一同を、ずらーっと見渡した。ここは、三十人程のクラスである。みんなは、理解を示した顔をした。

「わかったようだな。わかっただけでは、駄目なんだ。実践できなければ、いけない。そこで、今日は東京からAV女優を呼んである。冬野プリンちゃんだ。」

講師は携帯電話を取り出すと、

「もしもし、プリンちゃん？今から授業だよ。地下室だ。おいで。」

と通話した。それから五分もしないうちに、講義室の扉が開いて、AV女優・冬野プリンが現れた。ロングヘアーで長身だ。胸も大きいのは、彼女が服を着ていても、わかる。

彼女が教壇に講師と一緒に立つと、

「よろしくー。」

と言って、指でVサインを作った。あー、というような、  
どよめきが生徒から起こった。これから実践、大丈夫かな、  
という気持ちの表れだろう。講師は、

「それじゃあ、みんな準備してな。脱ぐんだよ。」

と説明すると、真っ先に冬野プリンが服を脱いでいった。  
彼女の下着姿、そして豊満な胸が出て、パンティを脱ぐと  
濃い目のアンダーヘアが現れた。生徒は恥ずかしそうに彼  
女を眺めている。

「ぼうっとせずに、さあ、準備しなさい。」

講師が命ずると、生徒も服を脱ぎ始めた。パンツ姿になっ  
た生徒の大半は、テントを張った姿である。講師は、それ  
を見ると、

「おおーっ。元気いいな。パンツも、おろしてな。」

と言うと、腰に両手を当てた。生徒達は少し恥ずかしそうに、パンツを降ろしていった。若い草が、によきによき、と立っている風景である。教壇の冬野プリンの前に、生徒のみんなは立って、あそこも勃てていた。

「よし、じゃあ、赤木から、いくか。」

すでに勃起した赤木は、冬野プリンの全裸を見ながらペニスを、しごき始めた。講師は、それを見ると、うなずいて、

「諸君らも、始めなさい。プリンちゃんを囲むのだよ。」

生徒みんなは教壇に立ったプリンを、半円形に取り囲むと、赤木と歩調を合わせてペニスを、しごき始めた。プリンの真正面に赤木は立っている。もちろん、ペニスも勃っている。プリンは教壇に座り込むと、両脚を大きく開いた。それを見た赤木は、

「うっ。」

と声を漏らすと、勢いよく射精した。その精液はプリンの顔の上を越えて、講師のズボンのチャックのところに、べつとりと、かかったのである。

「うえっ、元気よすぎだ。」

講師は情けなさそうな顔をして、ポケットからハンカチを出して、赤木のザーメンを拭き取った。教壇に座って、脚を広げたプリンは、さらに脚を拡げて寝そべった。彼女の割れ目は丸見えとなった。

「あっ、あー。」

生徒は口々に声をあげると、次々とプリンの腹や胸に向けて、射精して果てていったのである。

「よしよし、上出来だ。」

講師は言う、プリンにタオルを渡した。プリンは、にこりと笑うと、

「みんな。元気、いいのねー。」

と言って、タオルで、かかった精液を拭き取った。

「諸君。服を着たまえ。今日の授業は、ここまで。」

「赤木君って言うの？」

愛野郁子は、妹の部屋で彼女の同級生の名前を聞くと繰り返した。

「そう。あたしに告白したの、彼。でもー、もう、あたし、彼、いるから。お姉ちゃんを紹介するって、言ったのよ。」

君代は、満面に笑みを浮かべて話した。

「そうなの？でも、私、別に男に・・・（いくらでも金玉は、味わえるわね）困っているのね。え、日本語では、これは、おかしい表現だわ。あ、君代が言うんだもの。会いたいな。」

郁子は、無理に笑ったような顔をした。（街で男を漁った方が、手っ取り早いけどな。それに妹の紹介じゃ、悪い事できないかも。）

「よかったわ、お姉ちゃん。今度の日曜日で、どう？」

「ここで？」

「いえ、東公園が、いいんじゃないかしら。」

「ん？私、知らないわ。その公園。」

「連れてって、あげるわよ。広い公園だから。」

東公園とは福岡県庁が隣接した、かなり広大な公園で緑地帯である。ホモ、というかゲイの男性のたまり場という場合もあるし、浮浪者が、たむろしたり、家族で便所の近くにテントを張って生活している人間もいる。樹木が多いため、くつろげる場では、あるのだが。君代は森田健一と一緒に日曜日、東公園に遊びに来た事がある。人通りも、そんなにない場所もあるので野外セックスを楽しめるか、と思ったのだ。もちろん、君代が、そう考えたのだが。

森田健一は、木陰のベンチに腰掛けて隣の君代に話しかけた。

「こーんなに広い、公園があるんだね。町田の芹が谷公園より、いい感じになってるなー。」



「そうねー、あっ。」

「どうした？」

「あれ。」

少し先の公園のテントから、女のあえぎ声が聞こえてきたのだ。浮浪者カップルだか夫婦がセックスをしているのだろう。

「昼間だぜ。よくやるな。」

「あたしたちも、しない？」

「テントもないし、やめとこうよ。」

「健ちゃんは、テント張ってないの？」

「いや、まだだよ。」

「じゃあ、あたしが。」

君代は森田のズボンの股間に手を当てた。すると、みるみる森田のあそこは膨らんできたのだ。

「健ちゃん、元気いい。」

「まあなー。」

「いますぐ、始めない？」

テントの中から聞こえてくる喘ぎ声は、悶え声となっていた。森田は、

「よし、やろう。」

と言うより早く、ズボンのベルトを緩めた時、向こうの方から人影が歩いて来た。

「おい、森田！」

赤木恵一だった。赤木は森田にだけ、先に気づいて声をかけたのだが、すぐに隣にいる愛野君代に気づくと、

（あ）と思った。

「あ、愛野さんも一緒か。邪魔したな。」

と近づくのをやめて、赤木は五メートル位先から声を出した。森田のペニスは赤木の顔を見た途端、萎えた。

「おい、赤木！」

森田はズボンのベルトを締めて立ち上がったが、赤木は脱兎の様に、その場を駆け出していた。近くのテントの中からは、

「あ！」

「あー！」

という男女の絶頂に達した叫びが聞こえた。それから、

「もっと面白いの借りてこいよ。」

と男の声がした。

「そうだなー。このメーカーのも、もう古いよな。」

と、同じ中年の年代の男が答えた声がした。テントの中で  
AVの鑑賞をしていたのだ。電源は、すぐ近くの便所から  
引いているらしい。君代は、

「あ、あれ。」

と言うと、便所の近くの木陰を指差した。森田が見ると、  
その樹にもたれて一組の男同士が抱き合っていた。まだ二  
十代らしい。森田は、

「福岡って、こんな、ものなのかな？」

と君代に漏らした。

「こんな、ものなのよ。東京とは違うんだから。」

と君代は答えると、右手で森田の尻をポンと叩いた。

東公園の東側には日蓮宗の寺があって、日蓮上人の像も建っている。この日蓮だが、神秘学的な方面からは、死んでから地獄に落ちたという話は、よくされている。

霊界の地獄に行き、日蓮に会ったという話もある。

これらの話は、かなり興味深いものではある。それは、さておき、君代と森田は東公園を出る事にして歩き始めた。

樹木の並んだ道を歩いていると、通りから見えない木陰の辺りから、二つの坊主頭が、にゅっと姿を現しては又、木陰に入った。

何と、その二つの坊主頭は抱き合っている位置にあり、首から下は僧服らしきものに見えたのである。

その時、寺の鐘がこーん！と鳴った。

すると、さっきの木陰から抱き合っていたらしい二人の若い僧侶は駆け出して、東公園を出て行ったのである。

ちなみに、福岡市におけるゲイの人口は、かなりなものと言われてもいる。

福岡市出身の芸人は大概ゲイという話も、ある位だ。さて、芸能界でも、やはりゲイはかなりの数でいるらしい。

お笑い界の大御所は両刀遣いらしいし、芸能人の男は、かなり両刀遣いらしい。最近カミングアウトした歌手もいるが、あれなど氷山の一角であろう。

特に若い男性芸能人は女みたいに華奢な人間も多いわけだから、先輩芸能人に狙われるわけだ。芸能界は福岡出身

者も多いため、ゲイも芸も伝播していつているのかもしれない。

実は日本の芸能界は入るのには、ゲイの先輩が、いるのを覚悟する必要があるのは、ご存じない人も多いと思う。

プロダクションによっては、ダメ押しされる事もあるくらいだ。

女性のアイドルである男性芸能人も、渋谷のラブホテルで先輩の男性芸能人と、ベッドにいるという事も又、事実なのである。

某プロダクションでも問題になっていたとはいえ、最終的には、うやむやになってしまうのは、まさか自分の尻の穴を掘られました、とは、いえないところが事実だろう。

帝都・箱崎大学でもA V学部を作った時、最近、流行の  
ゲイ映画の部門、つまりゲイ学科を作ろうかという話もあ  
ったのだが、ルシファー様のご託宣によって、とりやめと  
なった。

「ゲイは公序良俗に反する。」

というのが、ジェームズ・クラウンの祈りに答えたルシフ  
アー様のお告げであった。

君代と森田は東公園を出た。

隣接したところには体育館もあり、広い道路もある。

パート引越しセンターのトラックが、よく通っている。



この会社はフリーダイヤルのCMでも有名である。荷造りは、もちろん、引越し先の賃貸住宅の紹介までするという事で、業界ナンバーワンに、のしあがった会社だ。

大阪で起業して、現在は箱崎に福岡支社を置いているため、この辺の引越しはパート引越しセンターが一手に引き受けている。

従業員の半分を正社員ではなく、パートでまかなうという業界でも他の会社が、しない事で成長した会社である。

これが派遣などで人員を確保する、他の会社とは違ったやり方のため、派遣が禁止になっていっている現在でも急成長中の原因となっている。

♪あなたーのうちのー0120、パート引越しセンターえ

ー

という歌のフレーズはネットを見た事のある人なら、一度は眼にしているという、あの会社だ。

このCMの福岡版には、ミス福岡が出ていた。その女性が、東公園に犬を連れて散歩に来ていたのを、赤木恵一は、そこを出る前を見た。

赤木も君代が森田といた事にショックだったし、博多美人なるものを見て心を癒そうと思ったので、そのミス・福岡の後を追ったのだ。